

硫黄島における遺骨収集のための特命チーム 第1回会合 議事要旨

日時：平成22年8月10日（火）13：00～13：35

場所：官邸4階大会議室

出席者：菅内閣総理大臣、長妻厚生労働大臣、北澤防衛大臣、武正外務副大臣

〔硫黄島に係る遺族団体〕財団法人日本遺族会、硫黄島協会、小笠原在住硫黄島旧島民の会

〔特命チーム〕阿久津内閣総理大臣補佐官、内閣官房副長官補付内閣参事官（財務担当）、内閣官房副長官補付内閣参事官（厚生労働担当）、内閣官房副長官補付内閣参事官（防衛担当）、外務省北米局北米第一課長、厚生労働大臣官房審議官（援護担当）、厚生労働省社会・援護局援護課長、厚生労働省社会・援護局援護企画課外事室長、防衛省大臣官房審議官、防衛省大臣官房文書課長、防衛省経理装備局施設整備課長

議事：

1. 菅内閣総理大臣挨拶

- ・ 硫黄島において亡くなられた日本兵の遺骨のうち、約6割が未収集。日本のために亡くなられた方々の遺骨を収集することは、国の責務。
- ・ まずは国内である硫黄島の遺骨収集をしっかり進め、さらに他の外国における遺骨収集につなげていきたい。

2. 阿久津内閣総理大臣補佐官からの報告

- ・ 菅総理より、徹底した情報収集を行うことを指示され、7月25日から7月29日まで米国国立公文書館等において、硫黄島における遺骨の所在情報について予備的調査を行ってきた。その中で、①摺鉢山付近に日本兵の集合理葬地（Cemetery）があるとの記録、②場所が特定されていないが、約200体と約2000体の2カ所の日本兵の集合理葬地（Cemetery）があるとの記録、③小規模に日本兵を埋葬した場所（bury）の記録の存在が明らかになった。
- ・ 今後、場所の特定、情報の精査を行うとともに、試掘調査を早急に行いたい。
- ・ 滑走路下については、まずは資料調査により遺骨の存在の可能性の確認を進めたい。

3. 遺族等からの発表

○日本遺族会

- ・ 父を硫黄島で亡くし、何度も遺骨収集に参加してきた。子として、家に帰りたかったに違いない父を迎えてやりたい。

○硫黄島協会

- ・ 特命チーム発足に当たり、①最後の一柱まで取組を継続すること、②滑走路補修工事の際の遺骨の収集、③自衛隊による支援の継続の3点を要望したい。
- ・ また、日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式開催へ向けた支援も要望したい。

○小笠原在住硫黄島旧島民の会

- ・ 旧島民として、故郷がない状態ではあるが、一柱でも多く帰りたいという思いで取り組んできた。今後も遺骨収集に協力をお願いしたい。

4. 意見交換

○厚生労働大臣、防衛大臣、外務副大臣から以下のような発言があった。

（長妻厚生労働大臣）

- ・ 遺骨収集という言葉については、別の言葉にできないかと総理から指示があったことから、皆様にも御指摘いただきたい。
- ・ 昭和27年から現在までに77回の遺骨収集を実施している。
- ・ これまで面的調査による遺骨収集を実施していない地域についても、財務当局ともよく話し合い、面的調査をなるべく早めに、できれば3年くらいで行いたい。
- ・ 電磁的手法による探索も頻度を高めて実施したい。

（北澤防衛大臣）

- ・ これまで防衛省としてできる限りのことはしてきた。
- ・ 総理自らの発言で新しいスタートとなったのは大変意義あること。
- ・ 資料収集を相当科学的に行い、体制が整った上で組織的にどのように取り組むか考えてまいりたい。

（武正外務副大臣）

- ・ 米国国立公文書館や政府関係者との連携に努め、特命チームとして取り組みたい。

○遺族等から以下のような発言があった。

- ・ これからの遺骨収集は重機主体であり、防衛省の作業の助けがないとできない。
- ・ 我々は硫黄島における部隊の行動状況など知識を持っているので、何かあれば聞いてほしい。

○菅内閣総理大臣から以下のような発言があった。

- ・ 皆様の経験や知識などと米国の資料とを重ね合わせ、また自衛隊の協力も得て、より効果的に遺骨収集を進めてまいりたい。